

新訂増補

人物
レファレンス
事典

昭和(戦後)・平成・令和編
Ⅲ (2014-2024)

あ～す

目 次

凡 例	(6)
収録事典一覧.....	(10)
姓の読みがなガイド.....	(13)
人物レファレンス事典	
昭和（戦後）・平成・令和編 Ⅲ（2014-2024）	
あ～す	1

凡 例

1. 本書の内容

本書は、国内の代表的な人物事典、百科事典、歴史事典等に掲載されている日本史上の人物の総索引である。見出しとしての人名表記・読みのほか、異表記・異読み、生没年、その人物の活動時期、職業・肩書、業績など人物の特定に最低限必要なプロフィールを補記し、その人物がどの事典にどのような表記・読みで掲載されているかを明らかにしたものである。

2分冊構成で、本書には人名読みの先頭が「あ～す」のものを収録した。

2. 収録範囲と人数

別表に示した96種113冊の事典類に掲載されている、太平洋戦争終結時から現代に至るまでに活躍した日本人及び日本に関わりのある外国人47,613人を収録した。

3. 記載事項

(1) 人名見出し

1) 同一人物は各事典での表記・読みに関わらず1項目にまとめた。その際、最も一般的と思われるものを代表表記、代表読みとして太字で見出しとした。

2) 代表表記に対し同読みの異表記が存在する場合は、代表表記の後に()で囲んで示した。

例：秋山 実 (秋山 巳之流)

3) 事典に人名の読みが記載されていなかったものについては、編集部で調査の上、適切と思われる読みを補記し、末尾に★を付した。

4) 代表読みに対し部分的に清濁音の差のある読みが存在する場合は、代表読みの後に「, 」で区切って付記した。

例：しんどう かんじ, じんどう かんじ

5) 事典によっては読みの「ぢ」「づ」を「じ」「ず」に一律置き換えて掲載・排列しているものと、「ぢ」「づ」と「じ」「ず」とを明

確に区別しているものがある。本書の代表読みは明確に区別する方式を採ることとした。その上で、事典によって「ぢ」「じ」、「づ」「ず」の違いがある場合は、代表読みの後に「, 」で区切って表示した。

(2) 人物説明

1) 生没年表示

①対象事典に掲載されている生没年(月日)を代表生没年として示した。

②生没年に諸説ある場合、過半数の事典で一致する年(月日)があればそれを採用した。過半数の一致がない場合は*で示した。(比較は生年、没年それぞれで行った。)

③年表示は和暦と西暦の併記とした。和暦・西暦のいずれか一方だけが掲載されている場合は編集部で換算して記載した。事典類に掲載されている年単位の対応を採用、または一律に換算したため、明治5年以前では月日によっては誤差の生じている可能性もある。およその目安としてご利用いただきたい。

④生年のみ不詳、没年は判明の場合、生年の部分には「?」を用いた。没年のみ不詳の場合も同様とした。

⑤現代の人物で、没年を記載した事典がない場合は、没年を表示しなかった。

2) 別名

本書の見出しと異なる表記・読みを採用している事典がある場合は、それらをまとめて掲載した。

3) プロフィール

人物を同定するための最低限の情報として、その人物の活動時期と職業・肩書、業績を補記した。

①本書の活動時期は「明治期」「大正期」「昭和期」「平成期」「令和期」で表し、2つ以上の時期にまたがる場合は、「明治～大正期」「大正～昭和期」「昭和～平成期」「明治～昭和期」「明治～平成期」「大正～平成期」「昭和～令和期」「平成～令和期」とした。

②職業・肩書、業績はなるべく簡潔に記載した。

(3) 掲載事典

- 1) その人物が掲載されている事典類を①の後に略号で示した。(略号は別表「収録事典一覧」を参照)
- 2) 各事典における記載が、見出しの代表表記、代表読み、生没年表示と異なるときは略号の後に()で囲んでその内容を示した。その際、生年は㊦、没年は㊧で表した。

(4) 共通事項

- 1) 旧漢字は原則新字に統一した。
- 2) 代数表示は名の後に〔 〕で囲んで表示し、見出し及び見出しと異なる各事典の記述を示す際にはすべて「○代」の形に統一した。また「初代」は「1代」と表示した。
- 3) 和暦における「元年」は「1年」と表示した。

4. 参照項目

見出しの代表表記、代表読みと異なる別表記・別読みからは参照項目を立てた。

5. 排 列

- (1) 人名見出しの読みの五十音順に排列した。
- (2) 「ぢ」「づ」と「じ」「ず」は排列上も区別した。
- (3) 同読みの場合は代数順とし、代数まで一致する場合は同じ表記のものをまとめた。
- (4) 読み、代数、表記とも同一の人物は、おおむね活動時期の古い順番に並べた。
- (5) 掲載事典は略号の五十音順に記載した。

6. 姓の読みがなガイド

- (1) 人名見出しの姓を、漢字の画数順に排列した。
- (2) 同画数の場合は、漢字の部首順とした。
- (3) 2文字目以降も同様に排列し、途中で出てくるひらがな・カタカナは漢字の前に置いた。

7. 収録事典一覧

- (1) 本書で索引対象にした事典類の一覧を次ページ（及び見返し）に掲げた。
- (2) 略号は本書において掲載事典名の表示に用いたものである。
- (3) 掲載は略号の五十音順とした。

収録事典一覧

略号	書名	出版者	刊行年月
ア太戦	アジア・太平洋戦争辞典	吉川弘文館	2015.11
アナ増	増補改訂 日本アナキズム運動人名事典	ばる出版	2019.4
市川	市川房枝と歩んだ「婦人参政権運動」のめぐりと	市川房枝生誕120周年記念事業委員会	2015.3
異二辞	異名・ニックネーム辞典	三省堂	2017.5
内村	内村鑑三交流事典	筑摩書房	2020.10
オク建	オックスフォード建築辞典	朝倉書店	2024.11
折紙	折り紙の事典	朝倉書店	2024.11
温泉文	温泉文学事典	和泉書院	2016.10
華畫	華族畫報	吉川弘文館	2011.10
画家	日本画家人名事典	日本図書センター	2011.10
科学	事典 日本の科学者	日外アソシエーツ	2014.6
雅楽	雅楽事典 新装版	里文出版	2019.9
歌句大	名歌名句大事典一歳時 人 自然	明治書院	2012.7
華請	〈華族爵位〉請願人名辞典	吉川弘文館	2015.12
旧考4	旧石器考古学辞典 4訂版	雄山閣	2021.1
教歌俳	教科書に出てくる歌人・俳人事典	丸善出版	2022.12
教思増	教育思想事典 増補改訂版	勁草書房	2017.9
教人	教育人名資料事典 第1巻、第2巻(教育人名辞典)	日本図書センター	2009.3
キリ教	日本キリスト教歴史人名事典	教文館	2020.8
近医別	日本近現代医学人名事典別冊 1868-2019増補	医学書院	2021.6
近史1	近現代日本人物史料情報辞典 1	武久出版	2004.7
近史2	近現代日本人物史料情報辞典 2	武久出版	2005.11
近史3	近現代日本人物史料情報辞典 3	武久出版	2007.12
近史4	近現代日本人物史料情報辞典 4	武久出版	2011.3
近土	近代日本土木人物事典	鹿島出版会	2013.6
芸18	世界芸術家辞典 2018年復刻版	エムエフジー	2018.6
現執5	現代日本執筆者大事典 第5期	日外アソシエーツ	2015.7
現象	現象学事典 縮刷版	弘文堂	2014.6
現デザ	最新 現代デザイン事典	平凡社	2017.4
現漫	現代漫画博物館1945-2005	小学館	2006.11
広7	広辞苑 第7版	岩波書店	2018.1

略号	書名	出版者	刊行年月
作研	明治・大正・昭和作家研究大事典	桜楓社	1992.9
茶道	茶道具の名工・作家名鑑	淡交社	2018.11
三歌句	三省堂 名歌名句辞典 新装版	三省堂	2015.8
Jオ小	JOAオリンピック小事典 2020増補改訂版	メディアパル	2019.3
ジ人1	ジャーナリスト人名事典 明治～戦前編	日外アソシエーツ	2014.9
ジ人2	ジャーナリスト人名事典 戦後～現代編	日外アソシエーツ	2014.12
思想	日本思想史辞典	山川出版社	2009.4
社教	社会教育者事典 増補版	日本図書センター	2016.5
少女	少女小説事典	東京堂出版	2015.3
昭人	昭和人物事典 戦前期	日外アソシエーツ	2017.3
新カト	新カトリック大事典	研究社	1996～2010
新浄大	新纂 浄土宗大辞典	浄土宗	2016.3
人日	人物で読み解く日本史365人	新星出版社	2021.12
新日考	新日本考古学辞典	ニューサイエンス社	2020.10
精神	精神医学史人名辞典	論創社	2013.9
世映大	世界映画大事典	日本図書センター	2008.6
世演	世界演劇辞典	東京堂出版	2015.11
世数	世界数学者事典	日本評論社	2015.9
戦詩俳	戦後詩歌俳句人名事典	日外アソシエーツ	2015.10
戦神群	戦後神道界の群像	神社新報社	2016.7
男爵	男爵家総覧	昭和会館	2007.9
地近1	日本地理学人物事典 [近代編1]	原書房	2011.12
地近2	日本地理学人物事典 [近代編2]	原書房	2013.2
地現1	日本地理学人物事典 [現代編1]	原書房	2014.7
地現2	日本地理学人物事典 [現代編2]	原書房	2016.6
茶陶	近世・近代の茶陶窯場名工名鑑	淡交社	2011.4
茶の湯	茶の湯人物事典	世界文化社	2011.6
茶湯	茶湯人物ハンドブック	淡交社	2018.1
天皇	天皇皇族歴史伝説大事典	勉誠出版	2008.12
図人	図書館人物事典	日外アソシエーツ	2017.9
特教	特別支援教育史・人物事典	日本図書センター	2015.6
夏目	夏目漱石周辺人物事典	笠間書院	2014.7
20芸	日本の20世紀芸術	平凡社	2014.11
日エ	日本エスベラント運動人名事典	ひつじ書房	2013.10

姓の読みがなガイド

(画数順)

- (1) 人名見出しの姓を、漢字の画数順に排列した。
 (2) 同画数の場合は、漢字の部首順とした。
 (3) 2文字目以降も同様に排列し、途中に出てくるひらがな・カタカナは漢字の前に置いた。

1 画

一の宮 いちのみや
 一の瀬 いちのせ
 一ツ橋 ひとつばし
 一ノ宮 いちのみや
 一ノ関 いちのせき
 一ノ瀬 いちのせ
 一力 いちりき
 一万田 いちまだ
 一丸 いちまる
 一井 いちい
 一円 いちえん
 いちまる
 一戸 いちのへ
 一文字 いちもんじ
 一木 いちき
 一氏 いちうじ
 一本杉 いっぼんすぎ
 一田 いちた
 一后 いちご
 一色 いしき
 いっしき
 一坂 いちさか
 一条 いちじょう
 一志 いっし
 一杉 ひとすぎ
 一見 いちみ
 一松 ひとつまつ
 一青 ひとと
 一乗 いちじょう
 一星 いちぼし
 一柳 ひとつやなぎ
 一海 いっかい
 一原 いちはら
 一宮 いちのみや
 一峰 かずみね
 一竜斎 いちりゅう
 さい
 一番ヶ瀬 いちばん
 がせ
 一徳斎 いっどくさい
 一噌 いっそう
 一瀬 いちせ
 いちのせ
 乙竹 おとたけ
 乙羽 おとわ
 乙武 おとたけ
 乙益 おとます
 乙骨 おつこつ
 乙部 おとべ
 乙藤 おとふじ

2 画

七三 なみ
 七川 しちかわ
 七戸 しちのへ
 七月 ななつき
 七田 しちだ
 七字 しちじ
 七条 しちじょう
 七尾 ななお
 七里 しちり
 七海 ななうみ
 七浦 ななうら
 七種 さいくさ
 丁 ちようん
 てい
 乃木坂 のぎざか
 乃村 のむら
 乃南 のなみ
 九十九 つくも
 九州山 きゅうしゅう
 ざん
 九条 くじょう
 九里 くり
 九津見 くつみ
 九島 くしま
 九鬼 くき
 九野 くの
 九嶋 くしま
 二の方 にのかた
 二ノ文 にのぶん
 二ノ宮 にのみや
 二九亭 にくてい
 二上 ふたかみ
 二川 ふたがわ
 二川原 ながわら
 二反長 にたんおさ
 にたんちよう
 二木 にき
 ふたき
 ふたぎ
 二本松 にほんまつ
 二本柳 にほんやなぎ
 二名 ふたな
 二条 にじょう
 二村 にむら
 ふたむら
 二見 ふたみ
 二谷 にたに
 二国 にくに
 二松 ふたまつ
 二重作 ふたえさく

二俣 ふたまた
 二神 ふたがみ
 ふたら
 二宮 にのみや
 二唐 にから
 二瓶 にへい
 二葉 ふたば
 二階 にかい
 二階堂 にかいどう
 二関 にのせき
 人見 ひとみ
 入山 いるやま
 入不二 いるふじ
 入内島 いるうちじま
 入木 いるき
 入江 いるえ
 入来 いるき
 入沢 いるさわ
 入谷 いるたに
 入船 いるふね
 入野 いるの
 入鹿山 いるかやま
 入間野 いるまの
 八ツ尾 やつお
 八十島 やそしま
 八千草 やちぐさ
 八戸 やえ
 八方山 やかたやま
 八木 やぎ
 やつき
 やつぎ
 八木庄 やぎしょう
 八木沢 やぎさわ
 八木沼 やぎぬま
 八木原 やきわら
 やぎはら
 八木橋 やぎはし
 八代 やしろ
 やつしろ
 八田 はった
 八百谷 やおたに
 八汐路 やしおじ
 八住 やすみ
 八坂 やさか
 八条 はちじょう
 八尾 やお
 八尾坂 やおさか
 八杉 やすぎ
 八東 やつか
 やつづか
 八角 やすみ
 八谷 はちや

やたがい
 八並 やつなみ
 八板 やいた
 八波 はっぱ
 やつなみ
 八重嶋 やえじま
 八城 やしろ
 八巻 やまき
 八剣 やつるぎ
 八原 やはら
 八島 やしま
 八浜 はちはま
 八鳥 はっとり
 八尋 やひろ
 八森 やつもり
 八雲 やくも
 八嶋 やしま
 八幡 やはた
 やわた
 八橋 やつはし
 八藤 はつとう
 刀根 とね
 刀禰 とね
 力丸 りきまる
 力石 ちからいし
 力武 りきたけ
 十文字 じゅうもんじ
 十日市 とうかいち
 十代田 そしろだ
 十朱 とあけ
 十返 とがえり
 十河 そごう
 十和田 とわだ
 十時 ととき
 十鳥 ととり
 十亀 そがめ
 卜部 うらべ
 又吉 またよし
 又賀 またが

3 画

下 しも
 下八川 しもやかわ
 下口 しもぐち
 下山 しもやま
 下川 しもかわ
 下中 しもなか
 下井 しもい
 下元 しももと
 下斗米 しもとまい
 下出 しもいで
 しもで

日近建
 食満 南北 けま なんぼく
 明治13(1880)年~昭和32(1957)年 明治~昭和期の劇作家。3代片岡我当(11代片岡仁左衛門)の座付き作家。のち松竹入社。
 昭人(◎明治13(1880)年7月31日 ◎昭和32(1957)年5月14日)、日戯大(◎明治13(1880)年7月 ◎昭和32(1957)年5月)
 外間 正枝 けま まさえ
 昭和8(1933)年~ 昭和~令和期の洋画家。
 芸18
 ゲマインダー
 明治33(1900)年11月21日~昭和60(1985)年9月5日 大正~昭和期のドイツ出身の神言修道会司祭、聖マリア在俗会の創立者。
 キリ教、新カト
 毛馬内 次雄 けま ない つぎお
 明治40(1907)年12月~? 昭和期の建築家。
 日近建
 煙山 専太郎 けむやま せんたろう
 明治10(1877)年6月3日~昭和29(1954)年3月21日 明治~昭和期の西洋史学者。早稲田大学教授。「外交時報」に寄稿し、「近世無政府主義」を出版。
 アナ増、昭人、明治
 煙山 八重 けむやま やえ
 明治14(1881)年~昭和30(1955)年 昭和期の社会事業家。「愛の家」を設立、扶養の無い母子の収容、授産及び職業指導などを行う。
 日女肖
 毛山 森太郎 けやま もりたろう
 明治29(1896)年3月~昭和61(1986)年6月23日 明治~昭和期の政治家。衆議院議員。
 昭人
 ケラリーノ・サンドロヴィッチ
 昭和38(1963)年1月~ 昭和~令和期の演出家、劇作家、ミュージシャン。ナイロン100°C主宰。
 日戯大
 ケーリ
 →ケアリ、フランク
 ゲーリー
 明治27(1894)年5月13日~昭和51(1976)年12月15日 明治~昭和期のアメリカの宣教師。
 キリ教
 ケール
 明治9(1876)年4月29日~昭和31(1956)年5月28日 明治~昭和期のスイス・ザンクト・ガレン州出身のイエズス会司祭。1913年(大正2)来日、上智大学で経済学と語学を教えた。
 キリ教、新カト
 玄 永燮 げん えいしょう
 明治39(1906)年~? ◎玄永燮(きょんよんそぶ) 大正~昭和期のアナキスト。
 アナ増(げん えいしょう、ヒョン・ヨンソブ)
 元 心昌 げん しんしょう
 明治39(1906)年12月1日~昭和46(1971)年7月4日 ◎元心昌(げんしんしょう) 大正~昭和期

のアナキスト。
 アナ増(げん しんしょう、ウォン・シムチャン)
 巖 善平 げん ぜんへい
 昭和~令和期の研究者。桃山学院大学経済学部教授。
 現執5
 玄 秀盛 げん ひでもり
 昭和31(1956)年5月24日~ 昭和~令和期の公益社団法人日本駆け込み寺代表。
 現執5
 見学 玄 げんがく げん
 明治11(1908)年11月15日~平成4(1992)年8月13日 昭和期の俳人。
 戦詩俳
 ケン・サンダース
 昭和21(1946)年9月8日~ 昭和~令和期の俳優。
 日映改
 源氏 鶏太 げんじ けいた
 明治45(1912)年~昭和60(1985)年 昭和期の小説家。作品に「三等重役」「英語屋さん」。
 広7、日幻文、日肖、文蔵(◎明治45(1912)年4月19日 ◎昭和60(1985)年9月12日)
 見城 重高 げんじょう しげたか
 昭和期の建築家。
 日近建
 見城 美枝子 げんじょう みえこ
 昭和21(1946)年~ 昭和~令和期のエッセイスト、テレビキャスター。
 異二辞
 権文 善一 けんじょう よしかず
 昭和~令和期の慶應義塾大学商学部教授。
 現執5
 源田 秀三郎 げんた ひでさぶろう
 大正5(1916)年4月30日~昭和62(1987)年12月2日 昭和期の工学者。ネガ方式のカラー写真を国内で初めて開発した。
 科学
 源田 実 げんた みのる
 明治37(1904)年~平成1(1989)年 昭和期の海軍軍人、政治家。参議院議員。真珠湾攻撃作戦計画などに従事。ロッキード104Cの導入に大きな役割を果たす。
 ア太戦、昭人(◎明治37(1904)年8月16日 ◎平成1(1989)年8月15日)
 ケンドー コバヤシ
 昭和47(1972)年~ 平成~令和期のタレント。
 異二辞
 玄馬 純司 げんば じゅんじ
 昭和期の建築家。
 日近建
 検見崎 聡美 けんみさき さとみ
 昭和40(1965)年12月27日~ 昭和~令和期の料理研究家、管理栄養士。
 現執5

見目 陽一 けんもく よういち
 昭和21(1946)年~ 昭和~令和期の版画家(木版)。
 芸18
 剣持 勇 けんもち いさむ
 明治45(1912)年~昭和46(1971)年 昭和期のインテリアデザイナー。日本の家具・インテリア・工業デザインの開拓者の一人。
 現デザ
 剣持 和夫 けんもち かずお
 昭和26(1951)年~ 昭和~平成期の美術家。
 20芸
 剣持 剛 けんもち ごう
 明治36(1903)年~? 大正~昭和期の建築家。
 日近建
 剣持 勉 けんもち つとむ
 昭和29(1954)年~ 昭和~令和期の帝京大学教育学部初等教育学科教授。
 現執5
 剣物 修 けんもつ おさむ
 昭和15(1940)年~平成23(2011)年 昭和~平成期の麻酔科医。
 近医別
 玄侑 宗久 げんゆう そうきゅう
 昭和31(1956)年4月28日~ 昭和~令和期の僧侶、小説家。福聚寺(臨済宗)副住職。“死の周辺での心の交流”を主題として執筆活動を行う。「中陰の花」で芥川賞を受賞。
 現執5
 【こ】
 コー
 明治20(1887)年3月17日~昭和41(1966)年7月 明治~昭和期のアメリカの宣教師。
 キリ教
 高 史明 こさみよん
 昭和7(1932)年1月11日~ 昭和~令和期の小説家。
 現執5
 胡 治邦 こじほう
 大正10(1921)年~平成30(2018)年 昭和~平成期の医師。専門は地域医療。
 近医別
 吳 昌征 こしょうせい
 大正5(1916)年6月28日~昭和62(1987)年6月7日 昭和期のプロ野球選手。
 昭人
 高 順欽 こすんふむ
 →高 順欽(こう じゅんきん)
 吳 齊旺 こせいおう
 大正6(1917)年~ 昭和~平成期の水墨画家。
 芸18

吳 清源 ごせいげん
 大正3(1914)年5月19日~平成26(2014)年11月30日 ◎吳泉(くれいずみ) 昭和期の囲碁棋士。九段、日本棋院客員。現代碁の発展に貢献。随想集「冥窓」、回想録「以文会友」など。
 現執5、昭人
 吳 世創 ごせいそう
 大正7(1918)年頃~昭和26(1951)年12月30日 ◎吳世創(おせぢやん) 昭和期のアナキスト。
 アナ増(ごせいそう、オ・セヂヤン)
 小穴 純 こあな じゅん
 明治40(1907)年12月2日~昭和60(1985)年1月23日 大正~昭和期の物理学者。東京帝国大学教授。光学・応用光学の研究で功績を残した。
 科学
 小荒井 衛 こあらい まもる
 昭和37(1962)年~ 昭和~令和期の茨城大学理学部地球環境科学コース教授。
 現執5
 小荒井 庸 こあらい やすし
 ? ~昭和63(1988)年7月14日 昭和期の建築家。
 日近建
 小嵐 九八郎 こあらし くはちろう
 昭和19(1944)年~ 昭和~令和期の小説家、歌人。
 現執5(◎昭和19(1944)年7月31日)、三歌句
 児井 英生 こい えいせい
 明治41(1908)年~平成1(1992)年 昭和期の映画プロデューサー。
 世映大、日映改(◎明治41(1908)年8月21日 ◎平成4(1992)年3月18日)
 五井 孝夫 こい たかお
 明治37(1904)年6月25日~昭和61(1986)年7月3日 大正~昭和期の建築家。五井建築設計研究所社長。
 日近建
 五井 義雄 こい よしお
 明治22(1889)年10月5日~昭和48(1973)年5月14日 明治~昭和期の医学博士。
 日エ
 鯉江 一童子 こい えいちどうし
 大正14(1925)年1月10日~平成20(2008)年5月30日 昭和~平成期の俳人。
 戦詩俳
 鯉江 良二 こい えりょうじ
 昭和13(1938)年~ 昭和~令和期の陶芸家。
 芸18、20芸
 小池 亮夫 こいけ あきお
 明治40(1907)年10月30日~昭和35(1960)年10月31日 大正~昭和期の詩人。
 戦詩俳
 小池 晃 こいけ あきら
 昭和~令和期の政治家。参議院議員。
 現執5
 小池 岩太郎 こいけ いわたろう
 大正2(1913)年~平成4(1992)年 昭和期のデザ

新訂増補 人物レファレンス事典

昭和(戦後)・平成・令和編 Ⅲ (2014-2024) あ～ず

2025年6月25日 第1刷発行

発行者／山下浩

編集・発行／日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス

電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845

URL <https://www.nichigai.co.jp/>

電算漢字処理／日外アソシエーツ株式会社

印刷・製本／株式会社平河工業社

©Nichigai Associates, Inc. 2025

不許複製・禁無断転載

〈落丁・乱丁本はお取り替えます〉 〈中性紙北越淡クリームキマリ使用〉

ISBN978-4-8169-3053-9 *Printed in Japan, 2025*

本書はデジタルデータを有償販売しております。
詳細はお問い合わせください。